「見学レポート」「環境にやさしいダム」って、なんだろう？

「環境にやさしい取り組み」をしているダム。そこでは、どんなことがおこなわれているんだろう？　2つの小学生チームが、相俣ダムと草木ダムをおとずれた。

相俣ダム　利根郡新治村

ダムに流れてくる「流木」を「オガコ」にする。それを「相俣ダム」でやっているというので、見学に参加してくれたのは次の小学生8人。

〈写真右から〉
小林　由梨さん（松井田町立西横野小6年）
村田　太一くん（金島川市立豊秋小2年）
田村　仁くん（沖ノ義町立高田小4年）
田村　郁恵さん（沖ノ義町立高田小6年）
間仁田有興くん（伊勢崎市立宮郷小2年）
辰巳　雄軌くん（前橋市立細井小3年）
辰巳　俊介くん（前橋市立細井小1年）
大澤　俊裕くん（金島町立笠懸小6年）

…「でも、なぜ流木をオガコにするの？」「なんに使うの？」「だいたい、オガコってなあに？」。では、それをこれからみていくことにしようね。

なぜ、流木をオガコにするの？

相俣ダムで、みんなをあんないしたのは登坂新次相俣ダム管理支所長。

はじめに「なぜ、ダムに流れついた流木をオガコにするのか」、その説明を聞いた。

まず、なぜ流木がダムに流れつくかというと、台風などで山の木がたおれたりして、川に流されてくるから。それも1本や2本じゃなくて、とてもたくさんの量になるんだ。それをそのままにしておくと、ダムのゲート（水を流すところ）をふさいだりして、大変なことになる。

それで、いままでは流木をひきあげて燃やしていたんだけど、けむりやにおいが出るし、地球のためにもよくない。そこで、なんとかほかの方法で流木を処理できないか、と考えたのが「オガコにすること」。オガコというのは、木の粉のことだ。

上流からダムに流れついた流木。すごいねぇ〜んなにたまっちゃうんだ

管理支所でまずお勉強！　学校みたい？

オガコづくりの迫力にびっくり！

みんなで、オガコをつくる工場を見学することにした。

このオガコ工場は相俣ダムの敷地の中にあって、相俣ダムのほか藤原ダムと薗原ダムもいっしょに使っている。

3つのダムに流れてくる流木は、その6割までが直径30以上もある。だから、機械に入らないので「まきわり」で小さくしなければならない。といっても、人間がまきわりするんじゃ大変だよね。そこで秘密兵器「まきわり機」の登場！

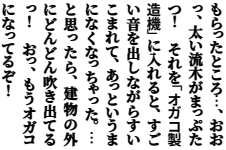
さっそく実演してもらったところ…、おおっ、太い流木がまっぷたつ！　それを「オガコ製造機」に入れると、すごい音を出しながらすいこまれて、あっというまになくなっちゃった…。と思ったら、建物の外にどんどん吹き出てるっ！　おっ、もうオガコになってるぞ！

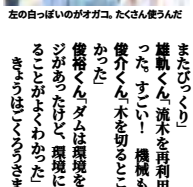
太い流木は「まきわり機」で割る！　グィ〜ン、スパ!!

オガコは牧場で使われていた！

次に向かったのは、川場村にある川田牧場。ここで、さっきのオガコが使われているんだ。牧場の川田忠さんから、いろいろお話を聞いた。

ここには約100頭の牛がいて、大きな牛では体重が600　以上もある。だから、牛たちが寝るときは、その重いからだをささえるクッションが必要なんだ。そのクッションにオガコが使われているんだって。それから、オガコは畑の肥料にもなるんだ。なるほど、ダムをなやませる流木が、オガコになり、こうして役にたっているということだね。





左の白っぽいのがオガコ。たくさん使うんだ

「流木→オガコ→牧場」に納得！

由梨さん「流木を捨てずにオガコにしていてびっくり。牛のために使っていてすごいなと思った」

太一くん「流木まっぷたつ！　迫力あった」

郁恵さん「オガコ工場も牧場も見学できてよかった。流木のリサイクルなんて、よく環境のことを考えていると思った」

仁くん「まきわり、オガコになるところ、いろいろ見られた。牛の大きさにもびっくり」

有興くん「流木をオガコにリサイクルするなんてすごいと思った。牧場でベッドになっているのを見て、またびっくり」

雄軌くん「流木を再利用するなんて思いもしなかった。すごい！　機械もすごかった」

俊介くん「木を切るところが迫力マンテン！　すごかった」

俊裕くん「ダムは環境をこわしているというイメージがあったけど、環境にやさしい取り組みをしていることがよくわかった」

きょうはごくろうさま。いろんな発見があったね。

オガコは購入して使われる。やわらかいベッドで牛たちもすくすく！